

公共施設のための自主点検の手引き

平成 27 年 3 月

目 次

1	手引きの目的と構成	1
2	点検の準備	1
	（1）建物全体の把握	
	（2）記録の確認	
	（3）服装・準備物	
3	点検の実施頻度	2
4	点検の実施	2
	（1）点検手順（基本的な点検方法）	
	（2）巡回方法（点検箇所ごとの注意点）	
5	不具合の内容と対処	6
	（1）通常機能の不全	
	（2）不具合の症状	
	（3）不具合の予備軍	
6	点検の記録	11
	（1）自主点検の記録	
	（2）法定点検の結果	
7	建物の解説	12
	（1）建築	
	（2）設備	
	（3）その他 建物や敷地における工作物	
	（4）特殊な設備	
	建築物概略図	14
	点検総括表	16
	自主点検理解度チェックリスト	18

1 手引きの目的と構成

本手引きでは、自主点検を実施する際の理念として「見守り」と「気付き」を掲げております。「見守り」と「気付き」は、施設の状況を継続的に把握することにより、些細な変化に気付き、事故の予防にもつながるものです。

その理念に沿った点検が、初めて施設の管理に携わるような方でも実施できるように、やさしく解説していますので、参考としてご活用ください。

次章からは、点検の準備（2章）、点検の実施頻度（3章）、点検の実施（4章）、不具合の内容と対処（5章）、点検の記録（6章）、建物の解説（7章）の順で解説しています。

2 点検の準備

（1）建物全体の把握

まず、点検で建物をスムーズに巡回できるように、見取図などを用いながら建物内の配置を事前に確認しましょう。

建物にどのような部位（建物の構成要素）や設備があるかイメージをつかめない時には、「建物の解説（7章）」に部位の説明や概略図を載せていますので、確認しましょう。

（2）記録の確認

点検の実施の前に、前回までの点検記録の確認をしましょう。

これまでに不具合が起きた箇所は、くり返し不具合が起きることが多いため、重点的にチェックするポイントになります。不具合の程度が軽く経過観察としている場合は、それが進行していないか、すでに修繕した場合は、その後再び不具合が起きていないかを確認することになります。写真などの記録があれば、現状と比較できるように事前に確認しておきましょう。

（3）服装・準備物

安全に点検を実施するために、うごきやすい服装をこころがけましょう。

また点検結果の記録のために以下のものを準備しておくといよいでしょう。

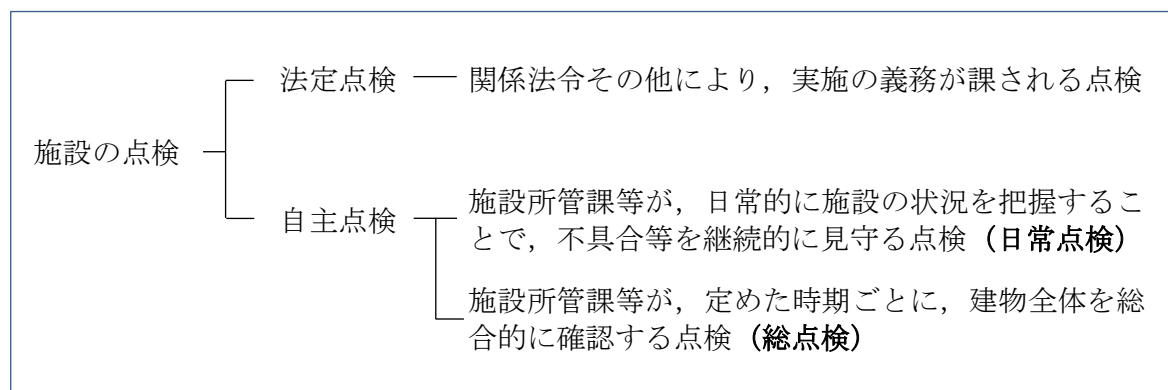
<準備物>

- ☐ メモ用紙 . . . 点検結果を点検総括表（様式についてはp 16を参照）に記
- ☐ 筆記用具 . . . 載するために、不具合の場所の状況のメモをとりましょう。
- ☐ カメラ . . . 不具合の写真を残しておく、修繕の相談や情報を共有する際に便利です。利用できるものがあれば活用しましょう。
- ☐ 本手引き . . . 点検方法に自信がない場合、確認のため携行しましょう。
- ☐ 各階平面図 . . . 不具合の起きた位置の記録を残すのに便利です。
- ☐ 過去の記録 . . . 状況の変化を確認するのに有効です。

3 点検の実施頻度

施設の状況を継続的に把握するためには、日常での「見守り」の気持ちが大切です。「施設に何か変わったことはないか」という目線を持ちながら行動したり、「施設の不具合について利用者から意見がよせられていないか」を注意深く確認したり、日常的に点検の意識を持つように心がけましょう（日常点検）。

また、これに加えて、年1回や2回程度を目安に時期を決めて、建物全体の点検（総点検）を実施しましょう。



4 点検の実施

ここでは、総点検の実施を例に点検手順（基本的な点検方法）と巡回ルート（点検箇所ごとの注意点）を解説していきます。

実施にあたっては、部位や設備が本来の機能を果たしているか確認することに加え、不具合（5章参照）を発見することが重要となります。

なお、実施にあたっては、安全に十分に留意しましょう。電気系の設備などは触れると感電の恐れがあるものがあり、注意が必要です。また、転落の恐れがある危険な場所などには、無理に近づかないようにしましょう。

（1）点検手順（基本的な点検方法）

点検の実施では、部屋などの一定の範囲ごとに下記の手順を繰り返しながら施設全体を巡回していくことになります。不具合の場所や状況について、メモや写真を取りながら進めていきましょう。

なお、不具合に「気付く」ためには、「視覚・聴覚・嗅覚・触覚」の「四感」の活用が有効です。点検の際には、「四感」の活用を意識してみましょう。

① 見る（視覚）

部屋をざっと見渡してみて、何か日頃と違っている箇所はないでしょうか。例えば、天井や壁、床などにシミがあったり、割れたりしている箇所などはないでしょうか。まずは全体を眺め、その後、内装や設備などを丁寧に見ていきましょう。

② 聞く（聴覚）

部屋に入り、注意深く耳を傾けてみましょう。普段使用している時には気にならなかった音などは聞こえないでしょうか。例えば、部屋に設置してあるエアコンや暖房、照明などの機器類から異常な音は鳴っていないでしょうか。異音は、故障の予兆の可能性もありますので、注意しましょう。

③ 嗅ぐ（嗅覚）

部屋に入ったら、室内の臭いを意識してみましょう。例えば、カビ臭さ、排水管の臭い、腐敗した臭いなどの異臭は感じないでしょうか。こうした異臭は、換気不良、排水管のつまり、部材の腐食など、なんらかの不具合に起因している場合がありますので、注意してみましょう。

④ 触る（触覚）

部屋にあるものに触れながら、正常な機能を果たしているか確認してみましょう。例えば、ドアの開閉不良や、固定のゆるみなど、見ているだけでは分かりにくい不具合もあります。

＜触るの例＞

- ・動くべきものを動かしてみる（ドアや窓を開けるなど）
- ・設備を作動させてみる（電気や空調をつけてみるなど）
- ・固定されているべきものをゆすってみる（手すりにぐらつきがないかなど）

（２）巡回方法（点検箇所ごとの注意点）

ここでは、例として建物の最上部（屋上）から建物全体を巡回するルートを想定し、点検箇所ごとの特に注意してほしい点を解説していきます。なお、実際の巡回ルートは、施設の形状に応じて設定しておきましょう。

① 屋上

屋上面（防水層）や屋根が破損したり、水がたまっていたりすると雨漏りの原因となります。このような症状がないかを全体的に確認しましょう。また、転落防止用のフェンスが設置されている場合には、サビの程度のほかに、破れている箇所や、ぐらついている箇所はないかなどを確認しましょう。

② 最上階

最上階は雨漏りが一番発生しやすい場所です。天井に雨漏りが疑われるようなシミはないか眺めてみましょう。一見、屋上に異常が見られなくても、雨漏りする場合がありますので、注意深く確認しましょう。

③ 階段・廊下

歩行の支障となるような割れやささくれなどはないか、手すりにぐらつきはないか、見るとともに触ったりしながら確認しましょう。

(参考) エキスパンションジョイント部について

建物と建物を結び付けている部位を「エキスパンションジョイント」と言います。増築など段階的に整備した施設でよく見られ、廊下の途中などにある金属カバーの部分指します。建物をつないでいる部分ですので元々すき間があり、雨漏りが特に起きやすい箇所ですので注意してみましょう。



エキスパンションジョイント部に雨漏りによるシミが見られます。

④各室

部屋の内部には、内装や建具、各種の設備が設置されています。全体を見渡し、ドアや窓を開け、照明・エアコンなどの設備を動かしてみるなど、点検の手順に沿いながら確認しましょう。

(参考) 部屋の湿気について

普段あまり利用していない部屋や、窪地などにあり空気の循環が悪い部屋は、湿気がたまりやすいものです。湿気を放置すると、室内のカビの原因や壁紙がはがれるなど内装を痛める原因となりますので、定期的な換気により、湿気を除去するように心がけましょう。換気してもなかなか効果がでない場所では、除湿機などでの対応も有効と考えられますので検討してみましょう。

⑤水回り（給湯室・手洗い場・トイレなど）

水回りは、給排水管の不具合による水漏れが発生しやすい場所です。流し台にある排水管や下の階に水漏れがないか確認しましょう。



流し台にある排水管の不具合で、水漏れが発生し、周辺が腐食しています。



配管からの水漏れにより下の階の天井にシミが見られます。

⑥エレベーター

専門業者による定期点検が基本ですが、施設を日常的に見守っている方だからこそ、いち早く気付くことができる不具合もあります。「急に止まるなどの動作不良はおきていないか」、「出入口に段差ができていないか」など、利用上で気づけるような不具合が起きていないか確認しましょう。

⑦外壁

建物の外周を回り、外壁にひび割れ、タイルの落下、**爆裂・エフロレッセンス（5章参照）**などの不具合がないか確認しましょう。点検の際には外壁の上部も含め全体を見るように心がけましょう。また壁面に備え付けられている照明やスピーカーなどの状況（落下の危険性や腐食がないかなど）も目視できる範囲で確認しましょう。

（参考）外壁のクラックについて

経年や地震などにより外壁にはひび割れ（クラック）が起きることがあります。東日本大震災での被害もあり、小さなクラックであれば、ほとんどの施設で見られるはずです。特段の影響が起きていないような場合は、経過を観察しながら変化を見守りましょう。ただ、内部に水漏れをしているなど、影響が現にある場合や不安を感じた場合は、専門業者や専門部署等に判断を仰ぎましょう。

⑧外周り

地面に段差や陥没がないか、また、敷地に高低差があり、斜面を押さえる壁（擁壁）などが設置されている場合は、それが崩れたりしていないか確認しましょう。

受水槽や受変電設備は、専門業者による定期点検が基本であり、衛生上、又は安全上の観点からフェンス等で囲まれているため、外観から、目に見える明らかな異常がないかは確認しておきましょう。

5 不具合の内容と対処

ここでは不具合を大きく「通常機能の不全」、「不具合の症状」、「不具合の予備軍」の3つに分けて、その内容と対処方法について解説していきます。

発生する頻度の高い事例を取り上げていますが、実際に建物で起きる不具合は様々です。記載されている事例に限らず、なんらかの異常がある、または異常が疑われる場合は、その状況を把握し、対応（経過観察・応急処置・相談・修繕）を検討するようにしましょう。

（１）通常機能の不全

通常機能の不全とは、建具や設備機器などが本来の機能を果たしていないような不具合を指します。例えば、「ドアが開閉しづらい」、「照明が正常に点灯しない」、「エアコンが正常に作動しない」など様々で、施設を利用する上で支障がありますので、普段から気づきやすい不具合です。

このような不具合は、利用者への影響の大きさや緊急性などを考慮し、適切な時期に修繕などの対処をしましょう。

（２）不具合の症状

ここでは、症状として現れる不具合について、「一般的な症状」と、日常的には馴染みの薄い「特殊な症状」とに分けて解説していきます。該当する症状が起きやすい場所においては、点検する際には特に注意しましょう。

【一般的な症状】

①ぐらつき

固定されている器具のネジなどがゆるむと、ぐらつきが生じます。上部に固定されている器具（スピーカー・照明など）のぐらつきは、落下につながる危険性があります。また手すりなどのぐらつきは、転倒や転落などの事故の原因になる恐れがあります。

ネジがゆるんでいる場合はそこを締め直すことで改善されますが、自身で対処できない場合には、専門業者に依頼することとなります。

【場所】

手すり、フェンス、備え付けの設備・棚、建具（窓・戸など）、照明、建物や敷地における工作物 等

②腐食

屋根材、設備機器、手すりや留め金などの金属部分で発生します。サビがかすかに見られる程度では大きな影響はありませんが、進行するとその部分が破損しやすくなり、ひどくなると穴が開いたりします。その結果として「雨漏り」、「水分による設備機器の故障」や「器具の落下」などの要因になります。サビが出始めてからは進行速度が早くなる場合がありますので、注意深く見守りましょう。

軽度の場合は、塗装による修繕が可能です。重度の場合は、その部分の交換が必要になります。よって、サビが出はじめた軽度のうちに対処することが有効ですので、可能な限り早めの対応を検討しましょう。

【場所】

金属部全般（屋根、鉄製手すり、金具、設備機器、建物や敷地における工作物 等）



上部に固定されたスピーカーに軽度のサビが見られます。



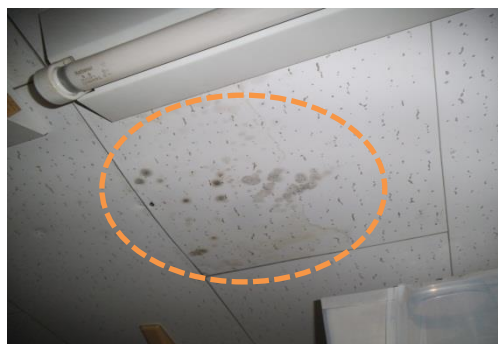
雨桶が腐食し、穴が開いています。さらに腐食が進むと落下の恐れがあります。

③水によるシミ

室内の天井や壁に水漏れのシミができることがあります。以前はなかった場所に新しくできたり、以前より目立つようになってきている場合は、水漏れが進んでいる恐れがあり、注意が必要です。

最上階や窓付近など外部に近い場所では外部からの浸水や結露など、それ以外の場所では配管からの水漏れや結露などが疑われます。

シミのある場所では、水漏れが進行していないか注意深く見守りましょう。



天井部分に水によるシミが見られます。進行していないか注意深く見守りましょう。

【場所】

室内天井、内壁、トイレ・水回り天井（給排水管）等

（※最上階、窓際、水回り付近やその下階に多いので注意してみましょう）

④水漏れ

天井や壁，給排水管の付近などで水が染み出てくる場合があります。

天井や外壁には，換気口などの隙間があるため，暴風雨など悪条件が重なると，一時的に水が入り込んでしまうこともあります。一過性であれば深刻なものではありませんので，注意深く見守りましょう。

症状が続く場合や，進行している場合は早目に修繕を検討しましょう。

【場所】

室内天井，内壁，トイレ・水回り天井（給排水管） 等

（※最上階，窓際，水回り付近やその下階に多いので注意してみましょう）

⑤表面の破損

屋上，外壁，床面，内壁や天井などの表面部分が，外部からの圧力などにより「ヒビが入る」，「欠ける」，「裂ける」，「割れる」など破損することがあります。また，年数を経るとともに劣化し，圧力をかけなくても，破損してしまうこともあります。

屋上や外壁で起きている場合は，雨漏りの原因となる場合がありますので，該当箇所の内側（天井・内壁）も注意深く観察しましょう。また，手足などが触れる場所では，破損による凹凸がケガやつまずきの原因になることがあります。コンセントや配線などが破損している場合は，漏電の恐れがありますので注意しましょう。

利用上の危険性があると考えられる場合には，その部分を覆ったり，利用者への注意喚起をしたりするなどの応急処置をしつつ，時期を見て修繕を検討しましょう。

【場所】

建物全般，建物や敷地における工作物



床のカーペットが毛羽立っていて，つまずきの恐れがあります。



ルーフドレイン周りのひびや割れが発生しています。

【特殊な症状】

⑥エフロレッセンス（白華現象）・コンクリートつらら

コンクリートなどの表面部分に白い生成物が浮き出る現象を言います。これが成長すると、つらら状になる場合があります。それ自体は、内部の石灰分が水分とともに表面に染み出し固まったものであり無害です。

建物全体に見られるなど程度が重い場合は、建物そのものの強度の低下につながりますので、専門業者や専門部署などに判断を仰ぎましょう。



エフロレッセンス・つららが発生しています。軽微なので注意深く観察しましょう。

【場所】

外壁，軒，屋外階段 等

⑦爆裂（ばくれつ）

サビによる鉄筋の膨張が原因でコンクリートの表面が割れ、はがれ落ちているように見える現象を言います。

建物全般に見られるなど程度が重い場合は、建物そのものの強度の低下につながりますので、専門業者や専門部署などに判断を仰ぎましょう。



外壁に爆裂が発生しています。こうした場所に近づく時は、破片の落下に注意しましょう。

【場所】

外壁，屋外階段 等

（３）不具合の予備軍

ここでは、放置すると不具合につながる兆候を解説していきます。いずれも施設所管課等が予防のための処置をすることが可能な事例であり、適切な処置を学んでおきましょう。

①植物繁茂

年数を経ることによって、屋上などに植物が育つことがあります。伸びた植物は排水の妨げになり、また根は床に穴をあけ雨漏りを引き起こす恐れがあります。

予防処置としては、まず、植物の丈が小さいうち（簡単に抜ける程度）に除去しましょう。ただし、すでにしっかりと根を張ってしまっているような場合は、むやみに抜くと雨漏りの原因となりますので、根元で切るなどして、今後の生育を防止しましょう。



植物が育ち始めている状態です。抜く・刈るなどして、植物の生育を防ぎましょう。



生育が進み、しっかりと根をはっている状態です。根元で切り、これ以上の生育を防ぎましょう。

②外部排水口のつまり

屋上やバルコニーには排水口があります。この排水口に土や葉っぱなどのゴミがつまると、排水が悪くなり、付近に水がたまることがあります。水がたまった状態が長く続くと雨漏りが起きやすくなります。

総点検時など定期的に清掃を心がけましょう。付近に木々が多い場所などでは、排水口が特につまりやすいので注意しましょう。

また排水口がきれいなのに、何日も水が流れないような場合は、排水管の途中などでつまりがおきていることが考えられますので、機会を見て専門業者や専門部署などに判断を仰ぎましょう。



土がたまってきたので、早めに清掃をするようにしましょう。



つまりを放置した結果、水がたまり雨漏りが起きやすい状態です。

③ほこり

電気製品の付近では、静電気によりほこりがたまりやすくなっています。見慣れていて軽視されがちですが、エネルギー効率の悪化、故障や火災の原因となることもあります。空調のフィルタや、電気配線の周りなどの定期的な確認と清掃を心がけましょう。



定期的に空調のフィルタの状況を確認しましょう。



コンセント周りにほこりがたまっています。
定期的に清掃しましょう。

6 点検の記録

(1) 自主点検の記録

点検の結果（不具合の状況及び対処など）を点検総括表（様式についてはp 16を参照）に記載し、その記録を適切に保管しましょう。

この記録は、施設がどのように維持管理されてきたかを示す大切な資料となります。修繕の計画、施設状況の調査、後任への引継などの際に、施設の状況をすぐに確認できるよう、保管場所や管理者を定めるなどルールを決めて保管しましょう。

(2) 法定点検の結果

法定点検の結果について、指摘内容を確認の上、適切に保管しましょう。

（「附録：法定点検一覧表」を参照）

（参考）保守点検について

本手引きでは、法定点検の概念に保守点検を含むものとして表現しています。

保守点検とは、エレベーターや自動ドアなど専門業者にメンテナンスを委託している設備等について、法令等で定める検査よりも高い頻度で行われる検査を言います。管理上、重要なものですので、その結果も適切に保管しましょう。

7 建物の解説

点検の対象となる、建物の基本的な部位や設備等について解説していきます。最後に、建物の概略図を示しておりますので参照してください。

(1) 建 築

建築は、柱・壁・床・屋根などの建物本体を指し、大きくは「外装」と「内装」、「建具」に分けられます。

【外 装】 建物の内部と外部とを区切るもので、外部からの雨風を遮断する役割を持っており、具体的な部位には、「屋根」と「外壁」があります。
屋根は、学校の校舎のように屋上がある平らな「陸（ろく）屋根」と、体育館のような傾斜のついた「勾配屋根」とに分類されます。

【内 装】 建物の内部空間を部屋の用途と大きさに応じて区切る役割を持っており、具体的な部位には、「天井」、「内壁」、「床」があります。

【建 具】 建物に設けられるドアや窓などを「建具」と言います。

(2) 設 備

設備は、給排水・空調・照明など建物に付属する機器を指します。

【給排水】 給排水は、建物で使用する水を供給し使用後は建物の外に排水する設備です。給水方式には、水道管から直接給水する方式と、建物内でいったん水を溜める受水槽方式があります。

【空 調】 室内空気の温度制御、湿度制御、換気の制御を行う設備です。監視室で一括管理する中央方式（大型空調）と、各部屋のエアコンなどの個別空調に分けられます。

【照 明】 各部屋の照明装置を指します。照明装置には、通常に使用するもののみでなく、非常用照明や誘導灯も含まれます。これらは、非常時の安全な避難のための重要な設備です。

【その他】 昇降機（エレベーター・小荷物専用昇降機）、通信設備（電話・放送装置）、消防設備（スプリンクラー・火災報知器）、給湯設備、トイレ 等

(3) その他 建物や敷地における工作物

工作物は、外部（外周り）にあるもので、次のようなものを指します。

【工作物】 煙突、広告物、門、塀、柵、斜面を押える壁（擁壁）等

（４）特殊な設備

建物の規模が大きくなったり，用途が特殊であったりすると，特別な設備が必要となります。ここでは，そのうちでも代表的な設備を紹介します。

【受水槽】



規模の大きな建物では，水道管から供給される水を一度貯めて利用者へ供給しており，そのための設備を「受水槽」と言います。設置される場所は屋外の場合が多いですが，建物内の専用の部屋（機械室）に設置されている場合もあります。屋上などに高架水槽を併せて設置する方式もあります。

【設置される主な用途】

庁舎，学校，文化センター，図書館，市営住宅 等

【受変電設備（キュービクル式高圧受電設備）】

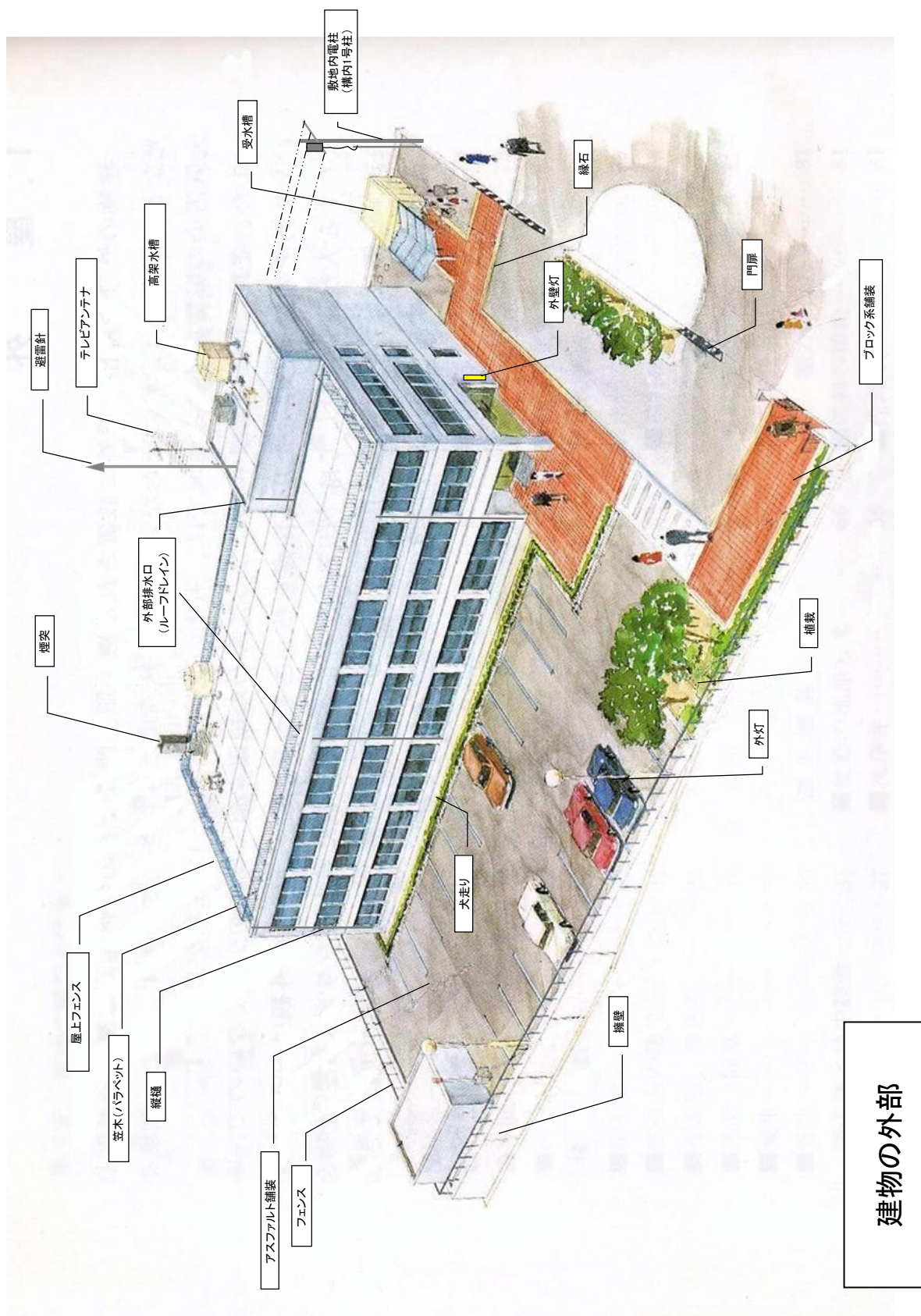


電気をたくさん使う建物では，高圧で引き込んだ電気の電圧を下げてから使用する必要があり，そのための設備を「受変電設備」と言います。設置される場所は屋外の場合が多いですが，建物内の専用の部屋（電気室）に設置されている場合もあります。

【設置される主な用途】

庁舎，学校，文化センター，図書館，市民センター 等

建築物概略図



点検総括表

建物名： _____

記録更新日： 年 月 日

直近の総点検日： 年 月 日

次回総点検予定日： 年 月 日

[illegible]

点検総括表

この総括表の記録を更新した日
を記入します。常に最新の情報
としておきましょう。

記入例

建物名： ○○○市民センター

直近の総点検を実施した日を記入し、次回の総点検の実施日を決めましょう。

記 録 更 新 日： 平成27年9月 5日

直近の総点検日： 平成27年8月10日

次回総点検予定日： 平成28年8月10日

確認日	場所・部位	症状	対応	備考
H26 11/10	2階 会議室 天井	雨漏れのシミあり	以前より経過観察を継続。状況に変化なし	写真① 写真②
H26 12/15	2階 和室 エアコン	2階和室のエアコン故障	修繕検討中 H27.8.1 見積依頼済	
H27 8/10	屋上	屋上防水のふくれ等の劣化あり	雨漏り等の被害がないため経過観察	写真③
H27 8/10	〃	外部排水口の詰まり	点検時に生育している植物を除去済	
H27 8/10	1階 廊下床	タイルの欠損（段差発生）	簡易補修済	
H27 8/10	外壁	エフロレッセンス（3 か所）	改修の必要性について営繕課に相談中	
H27 9/5	消防設備	火災報知受信機不具合（法定点検指摘）	修繕検討中	

不具合を確認した日を記入しましょう。

※確認日により、いつの時点での不具合であるか把握することができ、不具合の進行度合いや対処に要する時間がわかります。

状況の変化があった場合には、記録を更新しましょう。

※データを更新する際に、過去の記録を残しておく、不具合の発生や対処の変遷が把握できますので、更新前のデータも残しておきましょう。

自主点検理解度チェックリスト

このチェックリストは、本手引きの理解度を深めていくためのものです。建物の総点検を実施した際にチェックして、理解度の確認を行いましょう。チェック項目で「いいえ」となった項目については理解が不足している可能性がありますので、手引きの該当ページを再度確認してみましょう。

チェック項目	チェック欄	記載ページ
<u>点検の実施前に前回の点検記録を確認しましたか？</u> (実施前に確認することが重要です！)	はい ・ いいえ	P 1 「記録の確認」
<u>総点検時に限らず、普段から施設に何か変化はないかという意識を心がけて行動していましたか？</u> (日頃からの「見守り」の意識が大事です！)	はい ・ いいえ	P 2 「点検の実施頻度」
<u>点検で「確認すべきこと」を理解していますか？</u> (何に気付けばいいかを理解して、点検を実施しましょう！)	はい ・ いいえ	P 2 「点検の実施」
<u>安全には十分に配慮して点検を実施しましたか？</u> (点検のためにいろんな方向を見ていると、足元の注意が疎かになったりするものです。油断せずに実施しましょう！)	はい ・ いいえ	P 2 「点検の実施」
<u>「見る」、「聞く」、「嗅ぐ」、「触る」を意識して点検しましたか？</u> (「気づき」には四感の活用が役立ちます！)	はい ・ いいえ	P 2 「点検手順」
<u>点検箇所に応じた、注意点を理解して点検しましたか？</u> (場所毎に気を付けるべきポイントがあります！)	はい ・ いいえ	P 3～5 「巡回方法」
<u>利用頻度の少ない場所や普段あまり行かない場所なども含め、施設全体を点検しましたか？</u> (見ることを省くと、不具合への「気づき」が遅れます！)	はい ・ いいえ	—
<u>不具合の種類をひとつと理解して点検しましたか？</u> (「通常機能の不全」、「不具合の症状」、「不具合の予備軍」に分けて解説しています。まずは敵を知りましょう！)	はい ・ いいえ	P 6～P 11 「不具合の内容と対処」
<u>点検で気付いた不具合について対応方法を検討しましたか？</u> (不具合に応じた対応が必要です。予防処置も忘れずに！)	はい ・ いいえ	P 6～P 11 「不具合の内容と対処」
<u>点検の実施記録は残しましたか？</u> (維持管理していく上で、大切な資料です！)	はい ・ いいえ	P 11 「点検の記録」

点検について、分からないことや相談したいことがある場合は下記までご連絡ください。

仙台市都市整備局公共建築住宅部
公共施設マネジメント推進課

電話：（外線）022-214-8297
（内線）723-3752～3754